2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 23 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	土屋清人
研究課題	中小企業会計の情報開示の問題点 ～情報の非対称性について～				
研究キーワード	中小企業、SDGs	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	8. 働きがいも経済成長も	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>中小企業会計の情報開示の問題点を当初研究テーマとしていたが、単なる制度批判になる恐れがあり懸念を抱いていた。そこで、色々模索をし続け、中小企業の分析を同族会社の視点で行うことが、新たな知見を見出せることに気付き、「税務データを活用した労働分配率から導く新たな視点～中小企業における地域雇用貢献度の測定方法～」を千葉商大論叢に記述した。</p> <p>中小企業の 96%が同族会社で、その多くが赤字会社である。これは意図的に身内の役員報酬等を高額にすることにより、法人税等の納税を回避しているためである。正当な税務戦略を用いた結果である。これらを国税庁のデータを活用し、立証できた点は成果と考える。</p> <p>今後の研究において、同族会社の視点で進めることが、自分の研究テーマとすることに確証を得ることができ、当初の研究課題以上の成果を得ることができた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等</p> <p>(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【論文 (査読あり)】</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>「税務データを活用した労働分配率から導く新たな視点～中小企業における地域雇用貢献度の測定方法～」 千葉商大論叢 第 61 巻第 2 号</p> <p>【学会発表等】</p> <p>3. 主な経費</p> <p>論文作成に必要な書籍代。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)</p> <p style="text-align: right;">(本文は2ページ以内にまとめること)</p>					